



称津 昌広
糖尿病内分泌内科医長

「できるのではないかと」期待する。
称津医師によると、腎臓病が進行して人工透析が必要となると1回4時間、週3回の通院が必要となる。医療費も高額で1人当たり

人工透析患者の約4割を占める糖尿病性腎臓病の新薬開発が進められている。

新薬の鍵となるタンパク質を研究し、有用性の一端を実証した山梨県立中央病院糖尿病内分泌内科医長の称津昌広医師は「透析導入までの期間を遅らせることが

年間500万円ほどの公費がかかる。

山梨県内の慢性透析患者は増加傾向が続き、2021年は2413人。称津医師は「山梨は糖尿病が原因の慢性透析患者の割合が特に高いと言われている」と指摘する。

称津医師は東北大学院時代に「NRF2」と呼ばれるタンパク質に着目した

は研究者としてはうれしいが、臨床の現場で利用できるようになった場合は、冷静に適用を考えていかなければならない」と引き締め

研究を進め、このタンパク質が活性化すると、腎臓の機能低下を防ぐことをマウス実験で突き止めた。国際論文として発表している。既存の薬は血圧を下げるなど、マイナスの要因を取り除くことで腎臓の負担を減らす。一方、NRF2は「細胞内から腎臓を守る」という新たなメカニズムによる効果が期待されている

「NRF2を糖尿病性腎臓病の治療に役立てよう」と、製薬会社による臨床試験が進められ、山梨県立中央病院も参加。既に最終段階に入っている。称津医師は「新薬によって透析導入を遅らせることができれば、患者の生活の質低下が避けられ、医療費も軽減できる」と説明。「新薬開発

糖尿病性腎臓病新薬開発進む 透析導入遅らせる効果も

「進行を遅らせて透析までの期間を延ばすことが主目的。既に受けている透析から離脱できるようなる夢の薬ではない」と指摘する。

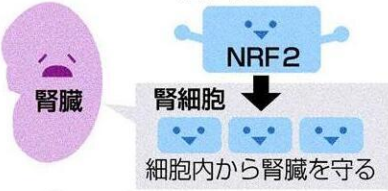
糖尿病、そして糖尿病性腎臓病の進行予防には、発病後の初期の段階で生活習慣の改善や医療機関の受診を行うなど患者自身の行動が非常に重要となる。称津医師は「健診などで指摘を受けたら、自覚症状がなくても油断せずに、まずは近くの医療機関を受診してほしい」と呼び掛ける。

臨床 慢性透析患者数 (山梨県)



研究 NRF2と腎臓病

活性化すると…



Nezu et al. Kidney Int. (2017)
Nezu et al. Am J Nephrol. (2017)
Nezu et al. Int J Mol Sci. (2020)

研究から臨床へ NRF2活性化薬 バルドキシソロンメチル

現在 臨床試験進行中

今後期待されること
糖尿病性腎臓病による透析導入を遅らせるか

腎臓